ベネズエラ情勢（内政・外交：令和７年５月）

１ 内政

（１）アルゼンチン大使公邸で庇護されていた野党関係者の脱出

ア　６日付当地メディアは、２０２４年３月から当地アルゼンチン大使公邸で庇護されていた野党ベンテ・ベネズエラ党関係者５名が脱出した旨報じた。

イ　６日、ルビオ米国務長官は、自身のＸを通じて、「米国は、カラカスのアルゼンチン大使館でマドゥーロ体制により拘束されていた人質全員の救出に成功したことを歓迎する。適切な作戦により、現在人質は全員、米国の地で安全に過ごしている。」とのメッセージを発信した。

ウ　７日、カベージョ内務司法大臣は、今回の脱出は米国とのハイレベル交渉によるものであった旨発言した。

（２）野党、ＮＧＯ等に対する弾圧

ア　当地人権活動家の逮捕

（ア）１３日、サーブ検事総長は、当地人権ＮＧＯ「Provea」に所属する弁護士兼人権活動家のエドアルド・トーレス氏が９日から行方不明になっていた件に関し、２５日に予定される選挙において暴力を引き起こすための陰謀に関与した容疑で同氏を逮捕したと発表した。

（イ）本件に関連して、タ－ク国連人権高等弁務官は、ベネズエラ政府による恣意的拘束と強制失踪が続いており、恐怖感が高まっているとして、当局に対して恣意的拘束者の即時解放を要求した。

イ　野党幹部の逮捕

２３日、ディオスダド・カベージョ内務司法大臣は、地下潜伏中であった野党幹部のファン・パブロ・グアニパ氏（元２０１５年国会第一副議長）他１０名を、２５日の選挙を妨害しようとしていた疑いで逮捕した旨発表した。同大臣によれば、選挙妨害計画の容疑によるこれまでの逮捕者は７０名に上る。

ウ　当地ＮＧＯに対する非難

２８日、カベージョ内務司法大臣は、当地ＮＧＯのProvea、Foro Penal、Médicos Unidos de Venezuela、Maracaibo Posibleがテロリストに資金提供を行い、２５日の国会議員・州知事・州議会議員選挙を妨害しようとしていたと名指しで非難した。

エ　米国政府職員の逮捕

２９日、カベージョ大臣は、偽旗作戦を実行すべく国家警察（ＰＮＢ）に潜入していたとされる米国麻薬取締局（ＤＥＡ）職員を逮捕したと発表した。

（３）国際商用便の運行に関する動き

ア　コロンビアとの商用便運航一時停止の発表

１９日、カベージョ内務司法大臣は記者会見を行い、２５日に実施される国会議員・州知事・州議会議員選挙の妨害計画に関与した疑いで３８名（ベネズエラ人２１名、外国人１７名）を逮捕し、かかる事態を受け、

全てのコロンビアとベネズエラ間の商用便の運航を即時停止すると発表した（運航停止期間は１９日～２６日まで）。

イ　ベネズエラ・パナマ間の直行便再開

２２日、パナマ民間航空局（ＡＡＣ）は、ベネズエラ・パナマ間の直行便を再開する旨発表した。また、同日、コパ航空はＨＰ及びＳＮＳを通じて、ベネズエラ航空当局（ＩＮＡＣ）の許可を得て、２０２５年５月２７日から、デイリーでベネズエラ・パナマ間の直行便を再開予定であり、５月２７日から６月２２日までは１日１便、６月２３日からは１日２便の運航を予定している旨発表した。

（４）国会議員・州知事・州議会議員選挙

ア　安全対策措置

２０日付官報を通じて、５月２５日の選挙に向けて、２３日～２６日の間、国境（陸・海・空）における移動制限、国内でのアルコール販売の停止、選挙プロセスを妨害する公共での集会・デモ等の禁止等の安全対策措置が取られることが発表された。

イ　選挙の実施と結果

（ア）２５日、国会議員・州知事・州議会議員選挙が実施された。

（イ）同日夜、全国選挙評議会（ＣＮＥ）は第１回開票結果（開票率９３．０１%時点）を発表した。投票率は４２．６３%で、国会議員選挙については、大愛国同盟（与党会派）が８２．６８%、民主同盟（政権寄り野党会派）が６．２５%、UNT-Unica（野党）が５．１８%、Fuerza Vecinal（野党）が２．５７%、その他／無効票が３．３１%との結果になった。州知事選挙については与党が２３州、野党が１州（コヘデス州）を獲得した。

（ウ）２７日、ＣＮＥは、第２回開票結果（開票率９９．８８%時点）を発表した。投票率は４３．１８%で、国会議員選挙（改選対象２８５議席）については、大愛国同盟（与党会派）が２５３議席、民主同盟（政権寄り野党会派）が１３議席、UNT-Unica（野党）が１１議席、Fuerza Vecinal（野党）が４議席、Lapiz（政権寄り野党）が１議席を獲得し、先住民枠を除く計２８２議席が確定した。州議会議員選挙（改選対象２６０議席）については、大愛国同盟（与党会派）が２３５議席、民主同盟（政権寄り野党会派）が７議席、UNT-Unica（野党）が４議席、Fuerza Vecinal（野党）が２議席を獲得し、計２４８議席が確定した。

（エ）同日、当選した国会議員（比例全国区）の任命・宣誓式が実施された。

ウ　マドゥーロ大統領の勝利演説

２６日未明、マドゥーロ大統領はボリバル広場で演説を行い、今回の選挙の成功を祝福するとともに、「これはベネズエラ全土の平和と安定の勝利である。３２度の選挙、制裁、略奪、暴力を経て、今日、ボリバル革命はより一層活力を帯び、強固なものとなっている。我々は、２１世紀のチャベス主義とボリバル主義の力を示した。」と述べた。

エ　野党側の反応

野党指導者のマリア・コリナ・マチャド氏が率いるComando con Venezuelaは、２５日１７時現在の民間

調査機関の調査結果として、投票率は１２．５６％、棄権率は８７．４４％であったと発表した。また、マチャド氏は、自身のＳＮＳで動画を配信し、「本日、ベネズエラ国民は犯罪体制（注：マドゥーロ政権を示唆）に再び打ち勝った。８５％以上の国民がこの体制に従わず、No と言った。」と述べた。

２ 外交

（１）ガイアナ・エセキボ関連

ア　ＩＣＪ判断に対するベネズエラ政府の反発

２日、ベネズエラ外務省は、国際司法裁判所（ＩＣＪ）が「最終判断が待たれる中、ベネズエラはガイアナが実効支配する係争地において、選挙の実施乃至その準備を行うことを避けるべき」との判断を示したことに対して、これを拒絶する旨の政府コミュニケを発出した。

イ　エセキボ地域における襲撃事件

（ア）１５日、係争中のエセキボ地域において河川をパトロール中のガイアナ国防軍が、ベネズエラ側から民間人を装い武装した集団により攻撃を受ける事件が発生した。これを受けてガイアナ政府は、ベネズエラ政府に対し、本事件の徹底的な捜査と容疑者の早期逮捕を求めた。

（イ）１６日、ベネズエラ政府は、ガイアナ側の主張は本事件の責任をベネズエラに負わせようとするものであり、これを断固として拒絶するとともに、本事件は人為的に緊張を作り出す目的で計画された新たな偽旗作戦の一部であるとのコミュニケを発出した。

ウ　ガイアナ政府との関係

（ア）２３日、トッド・ガイアナ外相は、２５日に係争地のエセキボ地域でベネズエラの選挙が実施されることに関し、「ベネズエラによる威嚇や脅迫には屈しない。エセキボ地域はガイアナに属す。国際社会のパートナーと協力して地域の平和と安定を確保するために取り組む。」と述べた。

（イ）２４日、ヒル外相は、自身のＳＮＳを通じて、「ベネズエラはいかなる国に対しても威嚇や脅迫を行ったことはない。我々が行っているのは、ベネズエラに属するエセキボ地域についての我々の歴史的権利を擁護することである。ガイアナは、１９６６年のジュネーブ協定を遵守し、ベネズエラとの交渉に臨まなければならない。」とのメッセージを発信した。

（２）マドゥーロ大統領のロシア訪問

ア　６日、マドゥーロ大統領はロシアを訪問し、７日にプーチン大統領と会合を行った。エネルギー・工業・交通・保健・テクノロジー・教育分野における協力、軍縮・サイバーセキュリティー・人権・テロ及び組織犯罪との闘いにおける協力、一方的制裁の拒絶、ベネズエラのＢＲＩＣＳ加盟意向に対するロシアの支持、貿易・共同投資の促進について確認し、ハイレベル政策協議の強化等の内容が盛り込まれた戦略的パートナーシップと協力に関する合意に署名した。

イ　９日、同大統領は、対独戦勝８０周年記念式典に出席した。

ウ　同日、マドゥーロ大統領は、ロシア訪問中の習近平中国国家主席と会合を行った。マドゥーロ大統領は、「中国は、新たな多極的世界の構築に向けた忠実な友（注：ベネズエラを示唆）を有している」と述べ、習主席は、「中国は常に、長期的かつ戦略的観点からベネズエラとの関係強化を重視しており、知見の共有を拡大し、

様々な分野における協力を深化させる用意がある」と述べた。

エ　マドゥーロ大統領は、同様にロシア訪問中のディアスカネル・キューバ大統領、カディロフ・チェチェン首長、トカエフ・カザフスタン大統領、トラオレ・ブルキナファソ大統領等とも会合を行った。

オ　１０日、マドゥーロ大統領は、サンクトペテルブルクに移動し、ベグロフ同市長と会合を行い、様々な分野において協力を進化させる旨合意した。

（３）ヒル外相の中国訪問

ア　１２日、ヒル外相が中国を訪問し、王毅外交部長と会合を行った。農業、商業、エネルギー、鉱業等様々な分野において包括的な協力計画の策定を進めていく旨合意した。

イ　１４日、ヒル外相は、第４回中国・ＣＥＬＡＣ閣僚級会合に出席し、習近平国家主席が演説で発表した、ラテンアメリカ地域と中国との関係のための５つの開発計画（文化交流、幅広い分野の奨学金、貿易協力、相互発展・学習、グローバル安全保障）を特筆すべき成果と評価し、これらの計画は中国とＣＥＬＡＣのより緊密で効果的な協力に向けた重要な一歩となるとして歓迎した。

ウ　同日、ヒル外相は、孫梅君税関総署署長と会合を行い、ベネズエラから中国への緑豆の直接輸出を可能にする植物検疫協定に署名した。

（４）対米国関係

ア　米連邦最高裁による一時保護資格（ＴＰＳ）終了の容認

１９日、米連邦最高裁は、ベネズエラ移民に対する２０２３年認定一時保護資格（ＴＰＳ）の終了を認める判断を下した。これに対しマドゥーロ大統領は、この決定を非難するとともに、「移住は犯罪ではなく、ＴＰＳを剥奪することこそ犯罪である。なぜなら、移住は人間の必要性によるものであり、彼らが有する権利だからである。」と述べた。

イ　グレネル米特使とベネズエラ政府関係者の会合

２０日、グレネル米特使は、ベネズエラ政府関係者とアンティグア・バーブーダで会合を行い、ベネズエラで不当に拘束されている米国人の解放、シェブロン・ライセンス、移民送還フライトの現状について協議した。会合後にはその場で米国人１名の引き渡しが行われた。

ウ　米シェブロン・ライセンス関連

（ア）２１日、ルビオ米国務長官は、自身のＸを通じて、米シェブロン社のベネズエラ事業に関するライセンスが予定通り５月２７日に取り消されると伝えた。

（イ）２２日、米国務省は、ルビオ国務長官が発表したとおり、米シェブロンのライセンスは５月２７日に取り消される旨改めて発表した。

（ウ）２７日、米シェブロン社は、「一般ライセンス（ＧＬ）４１Ｂは失効し、シェブロンのベネズエラにおける継続的なプレゼンスは、米国政府が設定する制裁枠組を含め、適用される全ての法律及び規制に準拠する」と表明した。

（エ）報道によれば、同日、トランプ米政権は米シェブロン社に対して、ベネズエラ石油公社（ＰＤＶＳＡ）との合弁企業への出資を含む、ベネズエラ事業における資産を維持するための限定的な許可を付与した。

エ　ルビオ米国務長官と当地アルゼンチン大使公邸から脱出した野党関係者の会合

（ア）２３日、ルビオ米国務長官は、ワシントンにて、５月初旬に当地アルゼンチン大使公邸から脱出した野党ベンテ・ベネズエラ党関係者５名と会合を行った。同長官は、会合にて、「マドゥーロの弾圧の標的となったベネズエラの勇敢な野党指導者たちと会えて光栄」と述べた。

（イ）会談後、野党関係者５名は記者会見を行い、ウルチュルトゥ氏は、「伝統的な外交は、昨年７月の大統領選挙でゴンサレス候補が勝利したことをマドゥーロに認めさせることにも、我々がアルゼンチン大使公邸から脱出するのに必要な安導券を取得することにも失敗した」と述べた。

（５）ベネズエラの国際調停機関加盟

３０日、ベネズエラ外務省は、同国の国際調停機関（International Organization for Mediation）への加盟及び平和、国際司法、グローバルサウスの強化に向けた習近平国家主席及び中国政府の貢献に対する祝意を伝える声明を発表した。